

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第 6 号 (10 月))

標記について、次のとおり発表します。

《10 月の病虫害発生予報》

<果樹類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
みかん				黒点病		
				そうか病		
				ミカンハダニ		
果樹類全般			果樹カメムシ類			

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病			
			ハダニ類			
きゅうり			うどんこ病			
				炭そ病・褐斑病		
				べと病		
				ミナミキイロアザミウマ		
				ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)		
トマト				コナジラミ類		
				葉かび病・すすかび病		
キャベツ等あぶらな科野菜			コナジラミ類・トマト黄化葉巻病 (TYLCV)			
				コナガ		
			ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)			

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類・大豆				アブラムシ類		
野菜類・花き類			アザミウマ類			
			シロイチモジヨトウ			
			ハスモンヨトウ			
			オオタバコガ			
			ハモグリバエ類			

《今月のトピックス》

■発生が**平年よりやや多く**見られる病害虫

病気や害虫は発生初期の防除が重要です。特に、大型のチョウ目の幼虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ等）では若齢期に防除しましょう！また、病害では、うどんこ病（作物共通）、トマトの葉かび病・すすかび病は、初期防除が特に重要です。

【きゅうり】

べと病

（降雨が続いており、過湿で発生が増加しやすい。換気に注意。）

ミナミキイロアザミウマ

（同一系統の薬剤で抵抗性が発達しやすい。連用は避ける。）

【キャベツ等あぶらな科野菜】コナガ

（近年発生は少なかったが、昨年、キャベツ等で発生が増加。）

ジアミド系剤の一部で抵抗性を確認。）

【野菜類・花き類・大豆】

アブラムシ類（秋期に発生が増加しやすい。）

【野菜類・花き類】

オオタバコガ（今年は全般的にやや発生が多い。）

■現在、発生は平年並だが、**今後の発生に注意**が必要な病害虫

【きゅうり】

炭そ病・褐斑病

（栽培後半に増加する傾向がある。）

【野菜類・花き類】

ハスモンヨトウ

（例年、秋期に発生が増加する。）

《(参考)10月の気象予報》(大阪管区气象台9月29日発表)

気温	低い（20%）	平年並（30%）	高い（50%）
降水量	少ない（20%）	平年並（30%）	多い（50%）
日照時間	少ない（40%）	平年並（40%）	多い（20%）

（詳細は、一覧表参照）

A 果樹

1 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝を除去する。
そうか病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・ほ場内の排水、通風を良くする。 ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。 [メモ] ・長雨により発生が多くなる。
ミカンハダニ	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避ける。

2 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

B 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 露地なす巡回調査では発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> QoI 剤（アミスター20フロアブル、シグナムWDG）の連用は避ける。 こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にしない。 草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。
ハダニ類	並～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 露地なす巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 同一系統薬剤の連用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高温、乾燥条件下で多発する。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> QoI 剤（アミスター20フロアブル、フリントフロアブル25）の連用は避ける。 こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日照不足、乾燥条件下で多発する。 ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。

炭そ病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QoI 剤（アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル）の連用は避ける。 ・ハウス内の過湿を避ける。 ・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。
べと病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は一部ほ場でやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QoI 剤（アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ホライズンドライフロアブル）の連用は避ける ・ハウス内の過湿を避ける。 ・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。
ミナミキイロ アザミウマ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は一部ほ場でやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・施設では、開口部を寒冷紗（0.4mm目合）で被覆し、成虫の侵入を防止する。特に、赤色ネットによる侵入防止効果は高い。
ワタヘリクロ ノメイガ （ウリノメイガ）	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部を寒冷紗等（2mm目合）で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・食害株の幼虫を捕殺する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設では、開口部を寒冷紗（0.4mm目合）で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。

3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 <p style="text-align: right;">※次ページに続く</p>

葉かび病・ すすかび病	並	<ul style="list-style-type: none"> 下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病 (TYLCV)	並～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、コナジラミ類の発生は平年並で、トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の発生はやや少なかった。 施設トマトの黄色粘着トラップの誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設では、開口部を寒冷紗等 (0.4mm 目合) で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ほ場周辺の除草にも努める。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 治療薬はないので感染株は見つけ次第抜き取り土中に埋める等適切に処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミはトマト黄化葉巻病 (TYLCV) を媒介する。

4 キャベツ等あぶらな科野菜

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査 (キャベツ) では、発生は平年よりやや多かった。 フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並だった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ジアミド系剤の一部では、抵抗性を確認している。ジアミド系剤 (プレバソンフロアブル5、フェニックス顆粒水和剤、ベネビア OD など) の連用は避ける。(9月7日病害虫防除情報発表) 被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予察灯への飛来虫数は平年よりやや少なかった。 巡回調査 (キャベツ) では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> セル成型苗で発生すると欠株を生じるので、発生初期の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗床は寒冷紗等 (2mm 目合) で被覆し、成虫の侵入を防止する。 食害の見られた株は、速やかに処分する。

C 野菜類・花き類・大豆

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査で、なす、キャベツでは発生はやや多かった。 ・黄色水盤への飛来虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少発生時の防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地なす巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・きくの巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒冷紗等（0.4 mm目合）で被覆し、侵入を防止する。 ・収穫後の残さは、他作物等での発生源となるので、速やかに処分する。 ・きくでは膜割れ前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病（TSWV）を媒介する。
シロイチモジヨトウ	並～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きくの巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設では、開口部を寒冷紗等（5 mm目合で可）で被覆し成虫の侵入を防止する。 ・フェロモンディスペンサーを設置し、成虫の交尾を阻害する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。
ハスモンヨトウ	並～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は摘葉し、速やかにほ場から持ち出して処分する。 ・施設では、開口部を寒冷紗等（5 mm目合で可）で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。

オオタバコガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、なすでの被害の発生及び産卵数は一部ほ場でやや多かった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並からやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害のあった新芽や果実は速やかに処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。 ・施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し成虫の侵入を防止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部を寒冷紗等(1mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailserVICemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室推進グループ

おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)